

釣れ釣れなるままに

2013年思い出の釣行記 PART. 3

灯りを点けまじは雪洞に 鹿島釣狂

手羽式竿

大太刀を振るう堀部安兵衛から2月11日にワカサギ釣りを誘われた。今日は隣近所や職場へのお土産にしようと1000匹を目標に1日中頑張るつもりで早朝から出かけることにした。少々早過ぎたかなという思いで砂川遊水池に着くと、安兵衛が先に駐車場で準備を整えていた。池の畔に向かうと引き上げていく釣り人に出会った。4時からカンテラを吊して釣りをしていたが今日は余りパツとしないので帰るというのだ。なるほど、釣れ方が今一である。この時間帯なら鈴なりになって釣れるだろうという思いが裏切られた気分だ。アタリに合わせて丁寧に1匹ずつを拾っていくしかない。

10時を回ると本当にアタリも途絶えてしまった。隣の安兵衛からも不調の愚痴が届いてくる。テントから這い出して、付近の釣れ方を聞いて回った。やはり、あまり釣れていないようだ。いつも見かける大きなテントの住人に声を掛けた。私はこの目立つ大きなテントの側に釣り場を設置したので、その中の住人の様子が伝わってきていたのだ。そして、このテントからは4匹、5匹と景気のいい声が聞こえてきていた。このテントはいつも張りっぱなしにして4人分の穴が開いているのだが、今日は二人だけで釣りをしていた。二人とも深棚で7m程のほぼ底釣りにしかワカサギが来ないという。自分のテントはというと岸近くの3m程の浅い水深の上に設置してある。

安兵衛のテントを覗いた。安兵衛は私の目の前でダブル、トリプルと連続して釣り上げて見せた。安兵衛も深棚を探っていたが氷から2.5m程の宙釣りで成果が出始めて、絶好調になってきたというのだ。

私は表層釣りに拘っているので、手羽式の竿しか持ってきていない。リールを使って深棚を探ると釣れることもあるのだが、効率が悪い感じがして好きになれないのだ。しかも深棚では大きなウグイがかかり仕掛をメチャメチャにしてしまうし、タナゴやクチボソがいたずらして面倒なのだ。最近ではリールを持って歩くことさえやめてしまった。

こんな時は諦めるしかない。職場へのお土産にするには少々物足りないが、1人100

匹として3軒分は確保したかなと思う。



大太刀を振るう堀部安兵衛

灯りを点けましょ雪洞に

職場で除雪していると、またまた堀部安兵衛からの電話が鳴った。携帯だったので仕事の関係ではないと察しがつく。テントをおニューにし、2月24日にその使い初めをしたいので一緒に行かないかというものである。テント新規購入を祝うべく馳せ参じることにした。

職員に伝えると、明後日は楽しみに待っていますとの変な激励を受けた。その職員は先日お土産に持たしたワカサギを近所にもお裾分けしたところ、その方も糠平湖でワカサギを釣ってきたが3人でコップ半分ほどの釣果しかなかったという。そして、その彼から質問攻めにあつたらしい。まず何をエサにしているのかと聞いてくる。紅サシを半分に切って使っている。そうするとそのエキスが出てワカサギがたまらなくなり食いついてくるのだと説明してやる。なんでも、糠平湖では撒き餌をしてエサを付けなくてサビキで釣っていたらしい。釣り場はインターネットから地図を検索して印を付けて渡してあげる。仕掛は説明しても難しいので、市販のもので十分と伝えてあったのだ。その彼女から「期待しています」と変なエールを受けたものだから頑張らざるを得ない。

今日は、何とかいい釣りをしたいものだと5時に目覚ましをかけた。外に出てみると大雪だ。風はないもののこんこんと降り続けている。12号線は除雪車が行き交っていてこ

んな朝早くから渋滞気味だ。それでも何とか7時には釣り始めることが出来た。まもなく安兵衛や岩松氏が続いてテントの中で釣り始めた。岩松氏も旧知の仲なのだが今年砂川で退職を迎え岩見沢に居を構えるという。また、再就職も現在の職に関したもので決まっているともいう。岩見沢に釣り仲間が増えたというものだ。

幸先がよく表層で釣れ続いた。少し食い渋ってきたが、職場の3人分のお土産は確保できたので、岡田氏のおニューのテントに潜り込む。少しワカサギの棚が深くなってきていたので岡田氏はリールを使って深棚を探り出した。手返しは遅くなるが順調に釣れ続けている。私は例の手羽式なので表層釣りしかできない。自分のテントに戻ってリールを使うことにした。一旦、手羽竿の仕掛を穴の中に落としてからリールを準備していると、その手羽竿に次から次へとワカサギが掛かるようになってきた。準備の出来たリール竿はほぼおいて手羽竿で釣り続けることとなった。

昼になっても雪が治まらず風も出てきたので帰りが心配だと岩松氏が引き上げた。なんでも1500gは釣ったという。岩見沢での再会を楽しみにしながら見送った。そのうちに岡田氏も片付け始めた。彼の釣果は1200gほどで、帰途がやはり心配なので大荷物をソリに積んでいるところだった。慌てて私も片付け始める。私は小さな荷物なのですぐに彼に追いついた。

国道は奈井江から一気に渋滞となった。高速道路の通行止めで国道に下りた車で溢れかえったのだ。岡田氏も隣りの車線を前に行ったり後ろに下がったりしている。私の前にはファイターズの大型バスが2台連なっている。後ろの乗用車にもファイターズのユニフォームを着たドライバーが座っている。隣はと見るとやはりファイターズのジャンパーを着たドライバーだ。何かファイターズのイベントがあつての帰りの道中なのだろう。バスには誰が乗っているのだろうか。1軍は沖縄名護でキャンプの真っ最中だし、稲葉や中田（残念ながら糸井はオリックスに電撃トレードされた）はワールドベースボールクラシックの強化試合でオーストラリアと戦っている最中だ。2軍だって千葉鎌ヶ谷で練習しているだろう。誰が乗っているのだろうか。（この日、対阪神練習試合で先発武田勝が打ち込まれ3回で6点を取られて6-15で負けた。強化試合ではオーストラリアに3-2でかろうじて勝ったが、中田も稲葉も目立った活躍はできなかった。）

美唄から岩見沢に抜ける裏道を知っていたのでそこを通り抜けた。その道は農道なのだが除雪が行き届いていて、私が美唄で勤務していた頃に通いなれた道なのだ。岡田氏は3時間もかかってようやく岩見沢に辿り着いたということだ。彼からは、次の日「討ち入りの会」の赤埴源蔵と大石主税に加えて、会を創設した浅野内匠頭（タクミノカミ）が参戦したということを知られた。

ワカサギの獲物は沢山釣れたので100匹ずつ6袋に小分けして、職場に3袋を、残りはもうワカサギ釣りには行かないだろうと自宅用に冷凍して保存した。



バツカンは200g ザルで水を切ったワカサギを入れると1400g。数えてみると559匹。1匹あたり2gというところか



灯りをつけましょ雪洞に お花をあげましょ桃の花

ワカサギをカメラに収めていると、女房が何を思ったか、雛人形を飾り始めたのでパチリとやる。この雛人形は、彼女の父が買ってくれたものだ。当時の庶民にとっては豪華ともいえる代物だが、大枚を叩いて買ってくれたものだそう。義父は、早くに父母を亡くし、不遇の幼少期を過ごして、女房が生まれた時も決して裕福な生活ではなかったのだが、自分の家族が出来た喜びを雛人形に託したものだと思われる。私の娘の雛人形はこれで間に合わせており、娘が結婚してからは飾ることもなくなっていたのだ。

女房が還暦を迎えたのでこのお雛様ももう60歳にもなる。お雛様は箱入りなので初々しいままだと思っていたが、女雛をよくよく見ると白髪が混じっていた。よく言われているように人形も歳をとることがあるようだ。女房のほうも釣り馬鹿を自認する旦那に仕えてすっかり萎れてしまった。3月3日にはその義父を自宅に招いて女房の還暦を祝おうと思っている。息子や娘も女房の還暦祝いを層雲峡温泉で執り行うと案内をくれていた。そして、層雲峡にはカンジキを持って行こうと考えている。層雲峡の底を縫うように流れる函で溪魚を狙おうと思っているのだ。何せ、釣り馬鹿を自認する私なのだから。